



義父の百歳を祝う

西欧人の友から「日本人は企業にしがみついて働き、それが人生のすべてのような傾向がある。それに比べ、西欧人は定年は仕事から解放され、こ

のほかにも卒業、入学、就職、結婚など人生にいろいろな節目がある。この節日をなんどなくやり返すのではなく、節目を機にリスタートするか否かで人生は大きく変わるよう気がする。

内館牧子著「終わった人」によれば、余りに長い年月を無理に過ごすことになる。

人は、社会的に「定年」を迎えた人が人生が終わるのをテーマに書かれ、セラーとなつた。確かにそれは二面がない。

西欧人の友から「日本人は企業にしがみついて働き、それが人生のすべてのような傾向がある。それに比べ、西欧人は定年は仕事から解放され、こ

の年も平均寿命が八十歳を超えて、高齢社会となつた。定年がない弁護士や自営業の人は別として、大勢が定年のある組織労働者。もし定年が「人生の終わった人」となるのであれば、余りに長い年月を無理に過ごすことになる。

言葉尻をとらえるつもりはないが、このような状態を「余生」と考えるのに、何の役に立たない。

「残生」をどう生きるかが今、社会的にも大きな問題になつてゐる。

三日後の八日で私は十七歳の喜寿を迎える。昔から「還暦」「古希」「喜寿」「傘寿」「米寿」「卒寿」二つの「銀杯」がある。

二つを比較すると、十五年間でサイズが小さくなっていることがよくわかる。さらに今年から「銀」から「銀メック」に変更になるという。つまり、百歳を迎える人が年々多くなり、予算が足りないのでそ

れからは自分の人生を楽しむ傾向が強い」ということ。自分の誕生日も同様に年一回訪れる。

日本の現代社会は男女とも平均寿命が八十歳を超え、高齢社会となつた。定年がない弁護士や自営業の人は別として、大勢が定年のある組織労働者。もし定年が「人生の終わった人」となるのであれば、余りに長い年月を無理に過ごすことになる。

「白寿」などと、百歳になると、個人的には「内閣総理大臣」と書かれた桐箱入りの銀杯を贈るなどの制度がある。

今の世の中は百歳も珍しくなく、「古希」「喜寿」は反発する。あえていえば「傘寿」は平均寿命にもなつていない。自分の身の回りでも、妻の父親が昨年、百歳で亡くなつた。はせめて「米寿」の平均寿その義父が百歳になつた時、国から「銀杯」を贈られ、我が家に保管している。それより十五年前に百二十歳で帰天した山口市のカルメル会修道会のシスターも「銀杯」を贈られ、それも私にプレゼントされたため、我が家には二つの「銀杯」がある。

二つを比較すると、十五年間でサイズが小さくなっていることがよくわかる。さらに今年から「銀」から「銀メック」に変更になるといふ。つまり、百歳を迎える人が年々多くなり、予算が足りないのでそ

## 人生の節目 ～新しい人に（1）～

新しい年の始め、誰も新年は一年に一回訪れる。自分の誕生日も同様に年一回訪れる。

このほかにも卒業、入学、就職、結婚など人生にいろいろな節目がある。この節日をなんどなくやり返すのではなく、節目を機にリスタートするか否かで人生は大きく変わるものもある。

内館牧子著「終わった人」によれば、余りに長い年月を無理に過ごすことになる。

言葉尻をとらえるつもりはないが、このような状態を「余生」と考えるのに、何の役に立たない。

「白寿」などと、百歳になると、個人的には「内閣総理大臣」と書かれた桐箱入りの銀杯を贈るなどの制度がある。

今の世の中は百歳も珍しくなく、「古希」「喜寿」は反発する。あえていえば「傘寿」は平均寿命にもなつていない。自分の身の回りでも、妻の父親が昨年、百歳で亡くなつた。はせめて「米寿」の平均寿その義父が百歳になつた時、国から「銀杯」を贈られ、我が家に保管している。それより十五年前に百二十歳で帰天した山口市のカルメル会修道会のシスターも「銀杯」を贈られ、それも私にプレゼントされたため、我が家には二つの「銀杯」がある。

二つを比較すると、十五年間でサイズが小さくなっていることがよくわかる。さらに今年から「銀」から「銀メック」に変更になるといふ。つまり、百歳を迎える人が年々多くなり、予算が足りないのでそ



左が最近の銀杯、右は15年前の銀杯